

【箱根町(神奈川県)】仙石原まちづくりプラットフォーム

1. 背景・目的

- 仙石原地域は日本有数の観光地であるが、商店街の空き店舗増加等が課題となっていたところ、交通事業者のバスターミナル整備計画を契機にまちづくりのあり方を検討することとなった。
- 地域住民や有識者、行政が連携し、まちづくりを推進するための将来像を協議する場として「仙石原まちづくりプラットフォーム」を平成30年度に創設した。



2. 事業概要

- 仙石原地域のまちづくりのテーマ(「箱根の西の玄関口 旅と生活のハブ拠点」)を策定した上で、仙石原交差点周辺において6つの事業を推進対象と位置づけ、具体的な検討はワーキンググループ会議(以下「WG会議」という。)を設置し、会議参加者間で役割分担を図りながら、事業の具体化を目指すこととしている。

3. 地域プラットフォームの取組概要

	平成30年度(1年目)	令和元年度(2年目)	令和2年度(3年目)
取組内容	プラットフォームの立ち上げ	まちづくりのテーマ・対象事業・推進体制決定	各事業の推進
各事業の取組内容	令和元年度(2年目)	令和2年度(3年目)	
マルシェ開催	複数メンバーが連携し、仙石原公園等を利用したマルシェを開催した。	ー(新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し開催延期)	
空き店舗利活用	先進事例を共有・議論し、キープレイヤーとなる人材の共有・発掘を図ることを確認した。	第1号案件としてカフェの開業準備を実施するほか、活用可能な空き店舗の洗い出しを実施した。	
仙石原公園利活用	計3社にヒアリングを実施し、「町有観光施設との包括的な委託」等の有益な意見を得た。	ヒアリングを実施した結果を踏まえ、町有観光施設との包括的な委託に向けた庁内・事業者調整を進めた。	
地域魅力向上	「エヴァンゲリオン」と町がコラボレーションした公衆トイレ改築を実施した。	箱根DMOと連携し、「エヴァンゲリオン」と町とのコラボレーションを紹介するウェブサイト構築等の取組を推進した。	
バスターミナル計画	バスターミナル整備用地の活用方式や周辺の商店等との連携方策等について協議を実施した。	交通事業者・WG会議の担当メンバー・町の3者において、バスターミナルに付帯させる機能と事業化までの進め方を確認した。	
交差点改良計画	交差点改良に向けた測量業務に着手した。	交差点周辺の道路拡幅計画の内容を調整し、県・交通事業者・町の3者で事業着手に向けた地権者協議等の準備を進めた。	

4. 取組成果

- まちづくりのテーマ、対象事業及び推進体制の確立
 - ・まちづくりのテーマを策定し、全体会議及びWG会議に加え、ワーキンググループ会議の中で事業を主体的に推進する役割としてのリーダー、サブリーダーを配置する等、まちづくり事業の推進に向けたプラットフォームの体制を確立した。

全体会議	
【位置づけ】ワーキンググループ会議検討状況、事業実施内容等、仙石原地域のまちづくりの方向性について調整する場	【メンバー】町、ワーキンググループ参加者、仙石原地域の住民(特に地権者)等
報告	意見・質問
ワーキンググループ会議	
【位置づけ】プラットフォームの検討対象事業について、主体的に関与したい方が集まり、議論や進捗共有を行う場	【メンバー】(座)宿泊施設等経営者、建設会社経営者、物件オーナー、交通事業者等 (官)町(学)仙石原地域にキャンパスを有する大学 (金)地域金融機関
※各事業について、事業を主体的に推進する役割としてのリーダーとサブリーダーを配置	

- バスターミナル計画及び交差点改良計画の事業着手に向けた進め方の合意
 - ・交通事業者、ワーキンググループ会議の担当メンバー、県及び町で調整を行い、バスターミナルに付帯させる機能及び交差点周辺の道路拡幅計画について確認するとともに、令和4年度の事業着手に向けた進め方、調整方針等について確認することができた。
- 仙石原公園利活用に向けた検討の方向性と課題の明確化
 - ・民間事業者へのヒアリング結果を踏まえ、仙石原公園単独での利活用が難しいといった課題と、町有観光施設との包括的な委託の可能性について確認することができた。
- プラットフォームを起点とした連携の推進
 - ・仙石原公園等でのマルシェ開催による賑わいの創出、WG会議メンバーによる空き店舗を利用したカフェの開業準備、箱根DMOと連携した「エヴァンゲリオン」とのコラボレーションの推進等、プラットフォームを起点とした各事業及びメンバー間の連携が推進された。

5. 今後の活動計画

- 交通事業者が進めるバスターミナル計画や県が行う交差点改良計画について、交通事業者、県、WGリーダー・サブリーダー等の関係者と契約条件等の最終調整を行い、全体会議へ適宜共有したうえで、令和4年度の事業着手を目指す。
- 仙石原公園利活用については、包括委託の実現を見据え、民間事業者へのヒアリング等の官民対話を実施し、令和6年度の事業化に向けた検討を進める。また、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、社会実験等により公園のポテンシャルを再確認しながら、事業化に向けた検討を進める。
- 意見交換等にとどまらず、行政と地域が主体的に連携するプラットフォームの運営を図る。具体的には、空き店舗利活用やまちづくり組織の担い手等の人材発掘・育成、空き店舗を活用したマルシェ開催をはじめとする事業間の連携強化等を実施する。

対象事業	令和3年度	令和4年度～
バスターミナル計画	計画の最終調整・契約条件整理	契約締結
空き店舗利活用	空き店舗情報発信体制整備	開業に向けた準備
仙石原公園利活用	町有観光施設の分析	民間事業者ヒアリング
プラットフォーム全般他	民間事業者ヒアリング	社会実験等による利活用方向性検討
	バスターミナルや交差点改良の進捗に応じた連携強化・まちづくり組織設立を見据えた地域運営の推進	整備事業実施
		更なる利活用案件の実現
		公募・手続